

Ⅲ 附属女子中学校・高等学校

附属中高の歴史・実績、課題・目標等

○附属中高は、校祖渡邊辰五郎が1881(明治14)年に開設した「和洋裁縫伝習所」を前身とする。1892(明治25)年に「東京洋裁女学校」、1931(昭和6)年に「渡辺女学校」と改称、高等女学校令により1941(昭和16)年に「渡辺高等女学校」となった。1947(昭和22)年新制「渡辺女子中学校」、1948(昭和23)年「渡辺学園女子高等学校」が設立されると中学校は「渡辺学園女子中学校」と改称した。1949(昭和24)年に大学が設立されると大学附属となり、2014(平成26)年に「併設型中高一貫校」の「東京家政大学附属女子中学校・高等学校」となる。まさに学園の歴史は附属中高の歴史であり、今年度で開校139年目を迎える。

○建学の精神「自主自律」で豊かな品性を備え自律した女性を数多く輩出すると共に、「愛情・勤勉・聡明」の生活信条を通して社会に貢献する心豊かな女性を育成してきた。今後もリーダーシップを発揮し、地域や国際社会で活躍する女性を育成していく。

○大学付属校として、「内部進学希望者と外部進学希望者の進路実現を図る」をミッションとし、「高い人格と主体性をもって、多様化、多元化する社会に貢献する女性を育成する女子校」を目指す学校像とする。

○附属中高の最大の課題は財政再建である。近年は、入学者の大幅な減少により財務状況は悪化し、大変厳しい状況である。生徒募集改善をはじめ、教育内容の見直しなど、抜本的な学校改革案を策定し、さまざまな改革に取り組むことが求められている。

○学校の指導目標として、次の3つを掲げている。

- 1 新しい時代に必要な資質・能力の育成
- 2 生徒の自己実現に向けた学力向上と進学実績の向上
- 3 学校改革と教育改革・高大接続改革(大学入学共通テスト)への対応

1 現状と課題

本校の最大の課題は、中・高とも入学者が減少して定員割れ(定員充足率の低下)が続き経営収支が大幅な赤字となっていることである。そのため、一人でも多くの入学者の確保に向けて、生徒募集をはじめ、抜本的な学校改革に教職員が全力を尽くすことが必要である。

1-1 入学者を増やすためには、外部進学の実績向上と特色ある教育内容を具体的に示すことである。そのためには、生徒の学力と進路実績を向上させることであり、教員の指導力向上だけでなく、学校の教育システムを変える「抜本的な改革」が必要不可欠である。

1-2 入学者の確保のためには効果的な生徒募集が求められている。全教員による塾・中学校訪問をはじめ、学校案内やHPのリニューアル、ネットの活用など、より効果的な入試・広報戦略を展開する必要がある

1-3 第三次再建計画では、財政再建のため経常収支の均衡を図る必要から人件費削減と経費削減が求められている。より効果的で効率的な学校運営を行う必要である。

1-4 第一次再建計画では、進学実績目標をGMARCH以上への合格者45名としたが目標を達成していない。目標達成に向けて一層の進路指導の充実が求められている。

1-5 英語力強化プログラム、各種英語検定試験、海外語学研修や海外修学旅行等のグローバル教育の充実を一層推進することが、本校教育の特色化と魅力化には不可欠である。

1-6 一方で、心身に不安や課題を持つ生徒が増加傾向にあり、生活習慣指導を含む生徒指導の徹底をはじめ、カウンセリングの充実と外部専門機関と連携した教育相談・教育支援体制の確立が求められている。

## 2 学校課題の解決のための3つの視点と方針（3つのポリシー）

### 2-1 学校の教育理念の実現を目指す(デュプロマポリシー)

「自主自律」の建学の精神と「愛情・勤勉・聡明」の生活信条という本校の2つの教育理念の下、何事にも自主的・積極的に取り組む生徒(目指す生徒像)の育成を目指し、これまで以上に活力と魅力ある学校づくりを推進していく必要がある。

### 2-2 明確な教育プログラムとシステムを提示する(カリキュラムポリシー)

保護者・受験生から選択される学校となるためには、どのような教育を、どのように行うか。教育内容を教育プログラムとシステムでカリキュラムとして明示することが重要である。そのため、探究的な学び（「かせいの学び」）とIB教育を導入する。

### 2-3 学校の「育てたい生徒像」が生徒募集に繋がる（アドミッションポリシー）

教職員一人ひとりが現状の学校課題をしっかりと把握し、校長のリーダーシップの下、「KASEI から SEKAI へ」の合言葉で「未来を創造し、世界で輝く女性の育成」という「育てたい生徒像」を持ち、受験生・保護者が「入りたい」「入れたい」魅力ある学校づくりを行う学校改革に取り組むことが生徒募集に繋がる。

## 3 改革に向けた2つの方向性

### 3-1 抜本的な改革に向けたビジョン

2019年度から中・長期的展望に立ち、探究学習とグローバル教育を指導の柱とする抜本的な改革に取り組んでいく。特に、学校改革の切り札としてIB(国際バカロレア)教育導入し、確かな学力と豊かな人間性を培い、国際社会で活躍できる女性を育成する。

### 3-2 短期的改革と中・長期的改革

生徒募集を考え、短期的改革で学力・進学実績の向上策に取り組み、中・長期的改革でIB(国際バカロレア)教育の導入に取り組む。

#### ア 短期的改革

①学力向上（基礎学力定着、特進クラス充実、検定を含む学習PDCAサイクルの確立、自学力の育成、英語プレゼン力育成）

②進学実績向上（模試活用指導の徹底、特進クラス対策講座の実施、外部講師を含めた進学特別講習・補習・講習講座の充実、）

#### イ 中・長期的改革

①主体的・探究的・概念的学習を取り入れた授業改革

②授業改革の評価方法としてIB教育のMYPを導入し、認定校を目指す（将来的にはDPコースの認定校を目指す）

#### ウ 短期的改革では、以下の視点から「女子校としてどう生き残るかを考える」

①女子校の魅力を伝える。

②東京家政大学附属校としての魅力（「Kasei ならではの」「かせいの学び」）をつくる。

③大学附属校としての使命を考える（確かな学力を身に付け生徒を内部進学させる）

## 4 短期的改革

### 4-1 学力向上策

#### (1) 基礎学力の定着に向けた指導

●朝学習でアウトプットの場を増やす

・朝読書の一部見直しと朝のSHRでの小テストの実施(月～金)

◇高校では、Classiを活用した朝学習の実施

●授業での学びの定着

・教科での確認テストの実施

・記述式問題に対応するため、授業振り返りとして中島式「R80」(アールエイティ)の導入

●未習熟者へのフォロー（補習）

- ・学力補充補習の充実(中学の火曜日指名補習継続、高校も指名補習実施)
- ・中学、定期考査(英数国)平均点7割未達成者への補習(3日間、部活動は停止)
- 学習習慣づけのためのNGUルーム(自習室)の利用促進
  - ・中学では朝の自習道場の他、放課後の自習室の開設
  - ・学生チューターに加え、学習アシスタントの活用を通じたNGUルーム利用の促進
  - ・ICT教材の活用による、授業と復習のサイクルの確立
- (2) 特進クラス指導の充実
  - ・独自教材の活用、高度な学習内容の指導
  - ・主体的な学び(アクティブラーニング)・探究的な学びの積極的導入
  - ・各種検定試験(英検・漢検)の中学・高校別の目標級設定による受験指導  
(英検は高2特進(E)クラス全員2級、中3特進(E)クラス全員準2級を目指す)
  - ・火曜・木曜日補習(中学特進クラスは火曜補習、高校は予備校講師の活用も検討)
  - ・生徒の進路意識の向上を図るため、進路指導部の面接指導の導入
- (3) 外部試験・定期テストを活用したPDCAサイクルの確立
  - 生徒個々のPDCA確立のため、担任による指導
    - ・教科で模試・ステイサポート・到達度テストの目標設定と振り返りとeポートフォリオ活用
    - ・生徒個々の弱点克服に向けた具体的な教科と連携した指導
    - ・面談の質向上、模試結果等を活用して「気づき」を促す指導(タイミングと情報提供)
  - 集団での弱点克服のため、教科による指導
    - ・教科会で帳票やFINEシステムのデータをもとに模試・定期考査結果を分析し、学力向上に向けた対応策を実施。(弱点分野を授業や定期テストに反映させる等)
- ◇学年毎の教科課題を克服するため、学年と教科が連携した教科指導を実現
- (4) 学校生活での気づきの蓄積、面談での生徒の自己分析・表現の強化で自学力を育成
  - ・eポートフォリオに、日々の気づきを入力させる
  - ・Classiに学習記録を入力させ、面談の際に確認を行う
  - ・定期面談と随時面談を織り交ぜて、生徒のモチベーションを保つ個人面談の実施
- ◇Classiの生徒活用、eポートフォリオ、Compassを活用し、目標・課題・取組をアドバイス
- ◇生徒が自己肯定感を持つよう指導する。授業・行事等他の場面でもeポートフォリオを活用
- (5) 英語プレゼン力の育成
  - ・中1から高2まで、中高一貫教育の目玉として外部機関を活用した英語4技能指導を伸ばす「英語プレゼン講座」(高校は1学期末、中学は学年末の講座)の実施
  - ・中2・高1で実施していたイングリッシュキャンプを包含した内容とする。
  - ・指導者は外部講師で、英語外部検定試験対策も兼ねる。

#### 4-2 進学実績向上策

進路指導部を中心に学年、教科が連携して進路指導を組織的、統一的に実施する。

- ①進路指導を体系化し全教育活動で展開する。そのために全教員が進路指導とキャリアカウンセリングが行えるように研修を実施し進路指導力向上を図る。
- ②数値目標(GMARCH20名)を達成する、中高一貫の体系的な進路指導計画を作成する
- ③生徒に高い志を育むため、各分野のスペシャリスト等の講演会などを企画し実施する。
- ④生徒の進路意識を高めるため、東京家政大学を軸に、高大連携を積極的に進める
- ⑤生徒の主体的な学びを促進するため、iPadを活用したeポートフォリオを進める。
- ⑥予備校講師の特別講習を毎年実施と並行して教員の予備校セミナーにも参加させる。
- ⑦キャリア教育(リアンサンプラン)を総合探求の時間に組み込み、進路指導を体系化する。

## 5 中・長期的改革

5-1 中・長期的改革は、以下の視点で取り組む。

- ①新しい学力観と国際化・多様化・情報化社会に対応したカリキュラムを編成

例 高校からの複線型のコース制の導入の検討

- A IBコース(中学からのMYP導入、高校でのDP取得を目指す)
- B ライフサイエンスコース(医療・薬学・栄養等の理系分野への輩出)
- C リベラルアーツコース(附属校としての教育の発展形)

②魅力ある学校づくりの推進

- ・保護者が入学させたい、生徒が入学したい学校

③教員の指導力の向上

- ・教科指導・進路指導・生徒指導・HR指導・部活動指導・面談指導など

④ ” Kasei ならでは” の学びを「授業改革」と位置づけ推進

- ・柱は、探究学習の工夫と実践、IB教育の導入、英語プレゼン力を付ける

参考：IB(国際バカロレア)の理念⇒本校の建学精神・生活信条と合致する

1) IBの使命 国際教育プログラムを推進し、発展させること

2) IBの目的 多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探究心、知識、思いやりに富んだ若者の育成

5-2 IB教育導入とグローバル教育を推進する。

- ① IB教育MYP候補校として2020年からの試行と認定校に向けた準備を着実に進める。
- ②短期海外語学研修のカナダ語学・オーストラリア体験入学・セブ島英語集中合宿、英検・GTEC等の検定、英語プレゼン講座、留学制度の策定等でグローバル教育を強化する。
- ③英語4技能強化、及び短期海外語学研修の事前・事後学習としてe-ラーニング英会話を導入する。
- ④帰国子女入試、留学制度の導入に向け、入試と受入れと派遣の制度の整備を行う。

## 6 PDCAサイクルによる学校運営の定着

- 6-1 円滑な校務運営のため校務分掌の業務内容を明確化し分掌内分担一覧を作成する。
- 6-2 学校自己評価シートと自己評価シートを作成し、校務運営に組織マネジメントを導入する。併せて、教員個人の自己評価シートを作成し、面談も実施する。
- 6-3 学校評価シートを学校運営の改善に授業評価シートを教員の授業改善に活用する。

## 7 入試・広報活動の充実

- 7-1 入学者減を分析すると共に他校の入試対策も参考にして効果的な対策を実施する。
- 7-2 IB教育の導入を積極的に広報するため、学校案内、HPを改定する。
- 7-3 学校内外の学校説明会・相談会、塾・中学校訪問を効率的・効果的に実施する。
- 7-4 教職員全員が一丸となって入試・広報活動を行い、入学者の定員確保に努める。
- 7-5 大学附属のメリットを生かし、東京家政大学との連携、相互交流の事業を実施する。
- 7-6 東京家政大学への内部推薦入学の在り方について検討し推薦入学者の増加を図る。

## 8 財政基盤の確立に向けての取り組み

- 8-1 経費削減項目を検討するなどして第三次再建計画の経費削減目標を達成する。
- 8-2 第三次再建計画で示された人員・講師時数削減を目指し、人件費比率を抑制する。

## 9 3つの学力要素の育成と2021年度大学入試改革及び新学習指導要領への対応

- 9-1 建学の精神と教育目標、学習指導要領を基にIB教育の評価基準を作成する。
- 9-2 教科横断によるカリキュラム・マネジメントで合教科の探求学習を実施する。
- 9-3 進路指導部中心に2021年度大学入試改革に対応した進路指導体制を構築する。
- 9-4 新学習指導要領・IB教育の研修会を実施し、授業改善に努めると共に、IB認定校に向けて新教育課程編成を始める。